

筆者は、「令和7年国勢調査の実施に向けて」というセッションにおいて「人口移動集計と地域別将来人口推計の観点からみた令和7年国勢調査の展望」と題した報告を行った。国の最も重要な統計調査といえる国勢調査も調査環境の悪化の影響を強く受けており、不詳補完を行ったとしても、不詳が増加すれば統計が実態から乖離する可能性は高くなる。研究者としては、各種統計や調査を活用して有効な政策立案につながる研究成果を産み出し、それらの重要性を訴え続けていくことが求められる。

（小池司朗 記）

ASEAN 活動的な高齢化とイノベーションセンター(ACAI)

ASEAN 活動的な高齢化とイノベーションセンター (ACAI) は、2020年 ASEAN 加盟国により合意され設立された、高齢化対策の知識・情報を共有し国際連携を進めるための国際機関である。2024年より活動が本格化し、今年2月に5か年戦略計画（2025-2029）が策定され、その具体案である活動計画が9月にタイ・バンコクおよびラヨーンで議論され、10月には活動の一環として ASEAN における健康な高齢化とイノベーションに関わる研究事業の公募が行われ、その審査会がブルネイで、さらに ASEAN 各国の国別調整官（Country Coordinator）の研修が千葉県成田市で開催されたところである。それぞれに筆者は参加した。これらの ACAI の活動は JICA（国際協力機構）も支援している。

戦略計画は、①健康とウェルビーイングの推進、②経済的包摂とデジタル機会の実現、③高齢者に優しい環境と気候変動への適応、④持続可能性と変革を柱に掲げ、HAAI（Healthy and Active Ageing Index）等をベースに策定された AAAI（ASEAN Active Ageing Index）によりモニタリングを図りながら、今後5年間、IT/DX/AIを活用し ASEAN 諸国のアクティブエイジングに資する活動が行われる見込みである。

（林 玲子 記）

日本人口学会2025年度第1回東日本地域部会

2025年9月18日（木）午後及び9月19日（金）午前の2日間の日程で、東日本地域部会が、仙台市の宮城大学サテライトキャンパスにおいて、対面と Zoom によるオンラインのハイブリッド形式で開催された。地域部会は人口学会・年次大会と比べて萌芽的な課題や技術的な側面を含む報告についても詳細な議論ができる場という性格があることから、今回の部会も各報告について20分の口頭報告時間と15分の質疑応答時間が確保されており、余裕をもったスケジュールでの開催となった。

今回の部会では、対面参加者による7報告とオンライン参加者による3報告とを合わせた10の口頭報告が行われた。社人研からは、藤井室長、小山室長と菅が対面参加による報告を行ったほか、清水部長がオンライン参加で報告を行った。そのほか、オンライン参加者の出席総数は正確に把握していないが、常時20名前後の参加があったようである。上述の通り最近の第1回東日本地域部会は報告時間に余裕をもったプログラム構成となっており、今回もすべての報告について技術的な側面も含む濃密な討論が行われたことが印象的であった。来年度以降も、十分な討論時間が確保され、各参加者が相互に刺激を受ける有意義なものとなることを期待したい。

なお、プログラムは日本人口学会のホームページ（「2025年度第1回東日本地域部会プログラムのお知らせ（第2報）」）に掲載されているため割愛する。

（菅 桂太 記）